



平成29年版「防衛白書」刊行！

日本の防衛

平成29年版「防衛白書」より

■ 巻頭特集

- 特集1 防衛省移行10周年 省移行後の10年の歩み
- 特集2 防衛この1年
- 特集3 輝き活躍する女性隊員
- 特集4 平和を仕事にする

■ ダイジェスト

- 第I部 わが国を取り巻く安全保障環境
- 第II部 わが国の安全保障・防衛政策と日米同盟
- 第III部 国民の生命・財産と領土・領海・領空を守りぬくための取組

今年の「防衛白書」の特色

- 分かりやすさの追求
 - ・ 白書の専門用語を「キーワード」として解説
 - ・ 諸外国の主要兵器の写真及び諸元・解説
- 巻頭特集の充実
 - ・ 国民が興味を持つよう、4つのテーマを特集
 - ・ 「省移行10周年」、「この1年」、「女性自衛官」、「人材」
- 読者の拡大
 - ・ 「国民へ広く」から、民間電子書籍でも無料Down Load
- 3部構成の「ダイジェスト」

※ 平成29年版「防衛白書」は、防衛省ホームページでもご覧いただけます。

米軍再編に係る嘉手納飛行場から三沢基地への訓練移転

米軍再編に係る嘉手納飛行場から三沢基地への訓練移転（共同訓練）が、7月7日から同14日までの間実施されました。

米軍再編に係る訓練移転（共同訓練）は、平成18年5月の再編実施のためのロードマップに基づき、二国間の相互の運用性及び米軍飛行場の周辺地域における訓練活動の影響を軽減するために行われるものです。

当局は、7月5日から同22日までの間、米軍への支援に加え、周辺住民の方々の安心、安全を図るため、三沢防衛事務所内に現地連絡本部を設置し、関係機関との連絡調整や騒音測定等を実施しました。

なお、他の米軍飛行場から三沢基地への訓練移転は、今回で8回目、また、三沢飛行場から他基地への訓練移転は、これまで18回実施されています。



陸上自衛隊及び米海兵隊による日米共同訓練の実施



MV-22オスプレイ

8月10日から同28日までの間、初めて北海道においてMV-22オスプレイが参加した、陸上自衛隊及び米海兵隊による日米共同訓練（ノーザンヴァイパー）が、北海道大演習場外2演習場等で実施されました。

今回の訓練では、より効率的な訓練実施のため、米海兵隊の参加航空機の拠点を一沢飛行場とされ、MV-22オスプレイ及びCH-53各4機が飛来しました。

また、米海兵隊は、三沢対地射撃場での単独訓練も計画し、東北防衛局は、8月4日から9月3日までの間、周辺住民の不安解消等を図るため、北川高生企画部長を本部長とする「日米共同訓練等現地連絡本部」を三沢防衛事務所内に設置し、関係機関との連絡調整や騒音測定等を実施しました。

なお、訓練期間中、地元への奉仕活動として、米海兵隊員と当局職員が一緒になり、三沢漁港での清掃活動なども実施しました。



東北防衛局優秀工事等顕彰状授与



東北防衛局では、完成した工事や業務の中から、その目的物の出来形又は品質の優れているものであって、他の模範とするにふさわしいものなどを優秀工事等として選定し、顕彰することにより、入札参加者の受注意欲を高め、目的物の品質確保を図る等、施設取得の円滑な推進に努めています。7月3日、当局調達部長より次の5社に対し、平成29年度の顕彰状を授与しました。

有限会社睦建設(三沢米軍(27)暖房ダクト(491)新設土木工事)
 株式会社中屋敷建設(三沢(27)指揮所改修等建築その他工事)
 寺下建設株式会社(海自八戸(26)庁舎新設等建築その他工事)
 エヌテック株式会社(霞目(27)空中線整備工事)
 株式会社エクシオテック東北営業所(松島(26補)構内通信線路新設工事)

平成29年度むつ湾掃海訓練の実施



7月18日から同30日までの間、青森県むつ湾において、艦艇による機雷敷設や機雷掃討などを主要訓練項目とする、むつ湾掃海訓練が行われました。

この掃海訓練は、訓練海面内で全ての漁業の操業を禁止して行われるため、漁業者の方々のご理解、ご協力が必要不可欠で、東北局は、訓練に先立ち関係漁協等へ説明会を行うなどして、ご理解をいただきました。

今後は、訓練での漁業制限等に伴う漁業者の方々への損失補償を行うこととしています。

つがる市で「防衛セミナー」を開催



7月29日、つがる市「柏ふるさとセンター」にて「防衛セミナー」を開催し、約300名が来場しました。

今回は、「日本を巡る安全保障を考える～弾道ミサイルへの対応～」と題し、防衛省防衛政策企画官、内閣官房内閣参事官、空自車力分屯基地司令が、昨今の北朝鮮情勢等に関する講演を行いました。

北朝鮮ミサイル対応については、全国の各自治体も関心を持っており、ここつがる市でも、9月1日青森県総合防災訓練でミサイル対応訓練が実施されました。

滝川改修工の男鹿石使用区間が完成



秋田県男鹿市の滝川改修工にて、景観に配慮すべく男鹿石を使用した区間の工事が完成しました。

この区間は、市内「杉下地区」、昔から石積護岸や石段がたくさんあり、石段を降り川魚捕りをするなど、子供たちの遊び場でした。

これは「ぬくもり」のある街並みに配慮し、今までと同じように川と親しめるよう、防衛省の障害防止対策事業として、男鹿市が昭和45年度から整備しているものです。





「つがる市」ホームページもよろしく！



新田の歴史が彩る
日本のふるさと
つがる市



岩木山と黄金色の田園風景

つがる市は、青森県の西北部、津軽平野の中央部に位置しており、西部は日本海に接しています。南方には津軽の秀峰「岩木山」と世界遺産「白神山地」を望み、中心部は岩木川により育まれた広大な津軽平野が拓け、どこか懐かしい「日本の原風景」のような眺めが広がります。

夏は比較的冷涼のため、農業が盛んな地域で、初夏のみずみずしい緑が広がる水田風景、秋の黄金色の稲穂が風にそよぐ壮大な田園風景は自慢の自然風景のひとつです。

主要農産物であるメロン、スイカ、米、ごぼう、ナガイモ、ネギ、トマト、りんごの8品目について、つがるブランド作物に指定して、農産物のつがるブランド化に取り組んでいます。

また、国際交流事業も盛んで、明治22年につがる市車力(当時車力村)沖合で座礁した、米国メーン州バス市のチェスボロー号の船員を救助したことがきっかけで、バス市と姉妹都市提携を結んでおり、現在でも活発に相互交流を行っています。

つがる市には、航空自衛隊車力分屯基地及び在日米陸軍車力通



遮光器土偶を配した駅舎(JR五能線木造駅)

信所の2つの基地が所在するほか、青森県の天然記念物に指定されている樹齢138年にもなる日本最古のりんごの木や、国の重要文化財に指定されている遮光器土偶が出土したことでも有名な、亀ヶ岡石器時代遺跡などがあります。現在、その亀ヶ岡石器時代遺跡と田小屋野(たごやの)貝塚の遺跡群を「北海道・北東北の縄文遺跡群」として世界遺産へ登録するための取り組みを各関係団体と連携しながら積極的に進めています。

(写真、文章ともつがる市提供)

「かかし作り交流プロジェクト2017inつがる」

7月30日（日）、青森県つがる市立車力小学校の児童と米陸軍車力通信所の軍人たちが協力して作成した「かかし」のコンテスト表彰式が、同市内むらおこし拠点館「フラット」で行われました。

この表彰式は、約1ヶ月前に児童と軍人らの混合チームが協力して制作した計12体の「かかし」を、その後「フラット」にて展示、来場者が投票、その投票結果を受け賞を決定するというもの。日米の参加者や来賓、観客など約100名が見守る中、金賞などの各賞を発表し、各チームを表彰しました。

金賞を受賞した小学生は、「みんなと相談しながら作ることができ、金賞を獲れると思っていたが、獲れて嬉しい」と笑顔で話していました。

当日は、つがる市マスコット・キャラクター「つがるちゃん」も参加し、子どもたちと記念撮影をするなど、表彰式を大いに盛り上げてくれました。



つがる市「馬市まつり」に米陸軍が参加

8月27日（日）、在日米陸軍軍楽隊「アングル・サムズ・オール・アメリカン・ブラス・バンド」の9名が、つがる市で開催された「馬市まつり」で、演奏を披露し、集まった大勢の観客を魅了しました。

「馬市まつり」は、つがる市最大のお祭りで、かつての農耕馬の競り市を起源とし、馬を模った“ねぶた”が街を練り歩き、「馬ねぶたパレード」などが催されるものです。

軍楽隊（同バンド）は、パレードとその後開催されたアトラクションで素晴らしい演奏を披露して祭りを盛り上げ、参加した福島弘芳つがる市長や市民たちと記念写真を撮るなど、積極的に交流し、集まった観客は、「楽しい演奏やパフォーマンスを見ることができて、とても楽しかった」と、感動した様子で話していました。

東北局は、これからも地元つがる市と米陸軍車力通信所のより良い一層の友好関係構築のため、協力してまいります。



総務部長 浅野正美 Masami ASANO



8月1日付けで総務部長を拝命いたしました、浅野でございます。東北防衛局はもとより地方勤務そのものが初めての経験であり、たいへん身の引き締まる思いです。

東北6県には多くの自衛隊施設と在日米軍の施設が所在し、当局は、防衛行政全般を担う拠点として、大変重要な役割を担っていると認識しております。

地域の皆様のご理解とご協力をいただきながら、これまでと同様に地域との信頼関係を構築できるよう、総務部長として最善の努力をして参る所存ですので、よろしくお願いいたします。

私事ですが、今回の異動に伴い妻とともに仙台市民となりました。ようやく生活環境も整い、休日にはできる限り東北地方の景勝地を巡り、新鮮な海産物などを堪能したいと思っております。

調達部長 小森達也 Tatsuya KOMORI



8月1日付けで調達部長を拝命いたしました、小森でございます。20年ぶりの勤務となります。

初めての係長職を拝命したのが、ここ仙台であり、また、私的には今現在の家庭を構えることとなった地ということもあり、少なからずの縁を感じております。

当時、最初の王城寺原演習場での米軍による実弾射撃訓練が行われ、局職員一丸となって様々な方面へ対応し、円滑な訓練の実施に寄与したことを懐かしく思います。

今回の赴任にあたっては、三沢基地でのF-35受入関連事業などの重要事案の最終段階の時期でもあり、身の引き締まる思いです。

前回勤務の経験を活かし、自らの任務を果たしていくとともに、その中で少しでも地域のお役に立てればと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

防衛補佐官(一等陸佐) 津島克巳 Katsumi TSUSHIMA



8月1日付けで防衛補佐官を拝命いたしました、津島でございます。

東北地方での勤務は初めてになりますが、風光明媚で、歴史・文化・伝統の根付いたこの東北の地で勤務できることに心より感謝しております。

これから、公私ともに充実した日々を過ごしていきたいと思っております。

また、防衛補佐官として、東北における防衛省・自衛隊の施策や活動に対し、地域の皆様方のご理解とご協力が得られますよう、微力ながら専心職務にまい進するとともに、東北防衛局と東北管内の各司令部等とのよき架け橋となれるよう、尽力していきたいと思っております。

どうぞ、よろしくお願いいたします。

(2007年)平成19年9月1日「東北防衛局」が誕生し、今年で10年！
 広報紙「東北のかなめ」も同じ歴史を歩んでいます。
 今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

2007年



平19.10月 創刊号
 ○東北防衛局がスタート
 ・「仙台防衛施設局」から「東北防衛局」へ



平20.7月 第4号
 ○岩手・宮城内陸地震への対応
 ・被災建物解体の技術的アドバイス

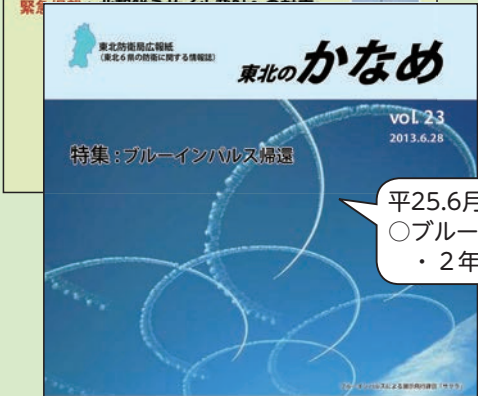


平21.4月 第7号
 ○北朝鮮ミサイル発射への対応
 ・PAC-3を秋田・岩手へ配備

2011.3.11
 14:46
 「東日本大震災」発災



平23.6月 第15号
 ○東日本大震災対応「がんばろう!東北」
 ・東北防衛局の震災対応



平25.6月 第23号
 ○ブルーインパルス帰還
 ・2年ぶりに松島基地へ帰還



平26.6月 第27号
 ○グローバル・ホーク一時展開
 ・グアムから三沢飛行場へ

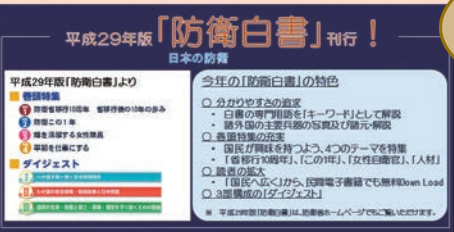


平26.12月 第29号
 ○オスプレイ東北初飛来
 ・みちのくアラート2014で霞目へ



平29.10月 第40号(最新号)
 ○平成29年版「防衛白書」刊行
 ○「防衛省東北防衛局」10周年

2017年



※創刊号から最新号(第40号)までのすべての広報紙「東北のかなめ」は、東北防衛局ホームページでご覧になれます。

「松島基地航空祭」にて



ブルーインパルスの展示飛行

8月27日（日）、東日本大震災後行われていなかった航空自衛隊松島基地航空祭が7年ぶりに催され、東北防衛局は政策広報活動を行いました。



「三沢基地航空祭」にて



9月10日（日）、航空自衛隊三沢基地航空祭が催され、東北防衛局は政策広報活動を行いました。



岩国基地から飛来したF-35B

インフォメーション

東北の主な自衛隊広報行事

自衛隊が今後予定している主な広報行事は、次のとおりです。事前申込み、整理券等が必要なイベントもあるので、ご注意ください。

開催日	イベント名	開催場所	問い合わせ先
10月7日(土) [10月8日(日)]	弘前駐屯地創立49周年記念行事 [自衛隊創立記念行事(市中パレード)]	陸上自衛隊弘前駐屯地 (青森県弘前市)	弘前駐屯地広報室 0172-87-2111(205、206、207)
11月12日(日)	陸上自衛隊第6音楽隊演奏会in南会津	御蔵入交流館文化ホール (福島県南会津郡南会津町)	郡山駐屯地司令業務室広報班 024-951-0225(283、284)
11月19日(日)	弘前自衛隊音楽まつり	弘前市民会館 (青森県弘前市)	弘前駐屯地広報室 0172-87-2111(205、206、207)
12月2日(土)	大湊音楽隊クリスマスコンサート	下北文化会館 (青森県むつ市)	大湊地方総監部総務課広報係 0175-24-1111(2731)
12月15日(金)	第29回秋田自衛隊音楽まつり	秋田市文化会館 (秋田県秋田市)	秋田駐屯地広報室 018-845-0125(208、219)

